

---

---

---

---

---

ファーストイーサネット・インテリジェント・スイッチ

CentreCOM® **8312**



---

# ハードウェア設置マニュアル

# 安全にお使いいただくために

本書では、本製品を安全にお使いいただくために、いろいろなマークで注意していただきたいことを説明しています。これらの注意事項を無視して誤った取り扱いをしないよう十分お気を付けください。

本書では製品を安全にお使いいただくために、以下のマークを使用して説明しています。

 <b>警告</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡したり重傷を負う可能性があることを示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

誤った取り扱いによるお客様への危害や財産への損害を防止するために、以下のマークを使用して説明しています。

## **注意**

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

# はじめに

このたびは、CentreCOM 8312をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

CentreCOM 8312は10Mbps、100Mbps Ethernet対応のルータスイッチで、ノンブロッキングスイッチ方式により、伝送効率と伝送品質の高いネットワーク環境を提供します。

CentreCOM 8312は標準12ポートのEthernetを装備し、拡張機能として100Base-TX/FXインタフェースモジュールを追加実装することができます。

おもに中規模のオフィスなど、高速ルータスイッチを必要とするLANの構築に最適です。

システムのインストールやパラメータの設定は、Telnet、CentreCOM Web for 8312によりネットワーク経由で行なうことができます。

また、SNMPエージェントを実装するとともに、TelnetやRS-232Cで接続されたコンソール端末により、ネットワークの管理が簡単におこなえます。

本書では、CentreCOM 8312をお使いいただくうえでの注意事項や導入の方法を説明し、付録で、障害が発生したときの対処方法や拡張インタフェースモジュールの増設について説明しています。

CentreCOM 8312の性能を十分に発揮し、正しくお使いいただくためにも、必ずお読みいただくようお願いいたします。

## ご注意

1. 本書の内容の一部または全部を転載、複製することは禁止されています。
2. 本書および本製品は改善のため予告なしに変更する場合があります。
3. 本書の内容に関しては万全を期していますが、不審な箇所や誤りなどお気づきの点がありましたら、アライドテレシス サポートセンターまでご連絡ください。
4. 本製品（資料を含む）は、外国為替および外国貿易管理法に定める輸出規制品に該当するため、日本国外に持ち出す場合は同法に基づく許可が必要です。
5. 本製品のソフトウェアは、その保管を目的とするバックアップ以外では、当社に無断で複製することを禁じます。

---

この装置を人命に関わるシステム等にご利用されるときは、システムの二重化など、適切なシステム設計上の安全対策を施してください。

---

- ・ Ethernetは、XEROX社の登録商標です。
- ・ IPXはNovell社の登録商標です。
- ・ AppleTalkはApple Computer Inc.の登録商標です。
- ・ SNAはIBM社の登録商標です。
- ・ CentreCOMは、アライドテレシス株式会社の登録商標です。
- ・ その他記載している社名、商品名は、各社の登録商標または商標です。

# 本書の構成

本書では、以下の構成で説明しています。

## 1章 パッケージの確認

---

本製品のパッケージ内容について説明しています。

## 2章 本製品の概要

---

本製品の特長や、各部の名称と機能について説明しています。

## 3章 使用上の注意

---

本製品を安全にお使いいただくために必要な注意事項について説明しています。

## 4章 設置と接続

---

本製品を設置するときの注意事項、および設置方法と機器の接続について説明しています。

## 5章 付録

---

障害が発生したときの対処方法や、製品仕様、オプションについてなどの説明をしています。

# 目次

安全にお使いいただくために	1
はじめに	2
本書の構成	3
目次	4
1 パッケージの確認	6
2 本製品の概要	7
2-1 本製品の機能	7
2-2 拡張機能	11
Expansion Module(拡張モジュール)の仕様	11
2-3 各部の名称と機能	12
正面部	12
背面部	14
インジケータランプ	15
システムインジケータLED	15
ステータスLED	16
EthernetポートLED	16
MODE切替スイッチ	17
IDスイッチ	17
To HUB /To PC切替スイッチ	17
3 使用上の注意	18
4 設置と接続	20
4-1 設置するときの注意	20
4-2 設置方法	22
デスクの上などに設置する場合	22
19インチラックに設置する場合	22
4-3 機器の接続	24
電源ケーブルを接続する	24
ネットワーク機器やコンソールを接続する	24
4-4 起動と終了	25
起動	25
終了	25

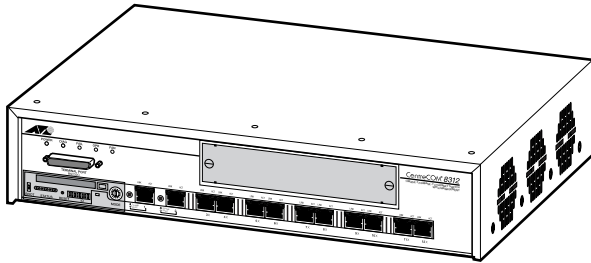
5 付録	26
5-1 トラブルシューティング	26
異常検出機能について	26
こんなときは	26
停電した時	26
電源スイッチをONにしても、POWER LEDが点灯しない	26
正常にEthernetポートと他の機器が接続できない	27
システムインジケータLEDのDIAG、FAIL、FANが点灯する	27
セルフテスト時のステータスLED表示	28
5-2 製品仕様	30
電源・環境・外観等の仕様	30
サポートするプロトコル及びサービス	31
サポートするプロトコルと対応する規格	31
サポートするMIB及び対応するRFC	32
インタフェース仕様	33
シリアルインタフェース	33
Ethernetポートインタフェース	34
5-3 メモリの増設	35
CentreCOM 8312-32Mの増設	35
CentreCOM 8312-32Mの装着手順	37
CentreCOM 8312-3Mの増設	38
CentreCOM 8312-3Mの装着手順	40
5-4 拡張インタフェースモジュール	41
CentreCOM 8301	41
CentreCOM 8302F	42
拡張インタフェースモジュールの実装方法	43
拡張インタフェースモジュールの装着手順	43
拡張インタフェースモジュールの取り外し手順	44
5-5 保証とユーザサポート	45
保証	45
ユーザサポート	45
調査依頼書のご記入にあたって	46
使用しているハードウェア、ソフトウェアについて	46
お問い合わせ内容について	46
ネットワーク構成について	46

# 1 パッケージの確認

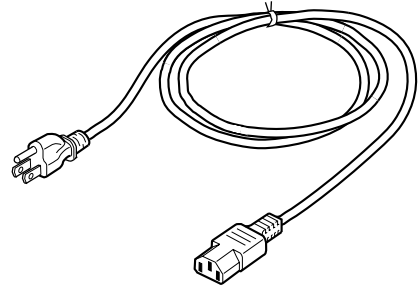
1

パッケージの確認

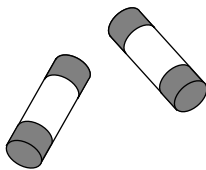
CentreCOM 8312は精密機器です。慎重に取り扱ってください。  
本製品のパッケージの中には、製品本体および付属品が入っています。  
パッケージを開けたら、これらがすべて揃っているかどうかを確認してください。



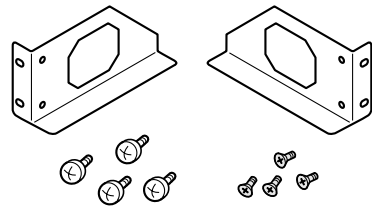
CentreCOM 8312 本体 1台



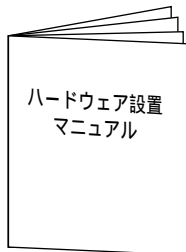
電源ケーブル (1.8m) 1本



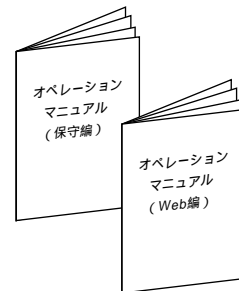
ヒューズ (250V、4A) 2個



ラック取り付け金具 (EIA規格) 2個  
ネジ (大・ラック用) 4個  
ネジ (小・金具用) 4個



ハードウェア設置マニュアル 1冊 (本書です)



オペレーションマニュアル 2冊  
(保守編・Web編)

保証書  
お客さまインフォメーション登録カード

# 2 本製品の概要

## 2-1 本製品の機能

### オートネゴシエーション機能

すべてのEthernetポート（本製品のポート1～12およびCentreCOM 8301のポート13～16）では、接続した機器に応じて伝送速度と通信モードを自動的に検知して、最適な状態で接続します。これらは標準でオートネゴシエーション設定となります（マニュアルでの設定もできます）。



接続機器によりオートネゴシエーション機能が正常におこなわれないことがあります。この場合は、コンソール機能により伝送速度・通信モードを固定設定として運用してください。

### パラレルリンク機能

本製品は、中継フレームの送信元物理アドレスの値によって自動的にロードバランシングをおこなう、パラレルリンク機能を搭載しています。

隣り合うEthernetポート2つを用いてCentreCOM 8312同士でパラレルリンク接続をするとき、パラレルリンクは100Mbpsの全二重モードとして動作します。したがって、最大400Mbpsの通信帯域を確保できます。

さらに、パラレルリンクに使用しているリンク2本のうち1本に障害が発生した場合、すぐに単一のリンクとして復旧します。これにより、バックアップポートとしての高信頼性を必要とされるトランクリンクへの適用に効果的です（本製品以外の装置とのパラレルリンク接続はできません）。

### フルフォワーディング・スイッチ方式（2層スイッチ方式）

本製品は3.2Gbpsのスイッチング帯域を有しています。したがって100Mbps・全二重モード設定の最大16ポートから受信した全てのデータフレームを確実に中継することができます。

### ブロードキャスト/マルチキャストストームフィルタリング機能

ブロードキャスト/マルチキャストフレームの無限周回によるストームが発生した場合、自動的にこれを検出し、一定時間の受信を停止することにより、ストームをおさえることができます。

### 物理アドレス自動学習

本製品は、受信したデータフレームの物理アドレスを自動的に学習します。あるアドレスをもつ通信端末から受信した最初のデータフレームはソフトウェアで中継されますが、以降はハードウェアによる高速スイッチングで中継されます。

本製品は標準構成で6,144件のアドレステーブルを持ち、CentreCOM 8312-3M（拡張機能）の追加で最大56,320件まで拡張できます。



### 物理アドレスフィルタリング機能

コンソール等で設定した物理アドレスについて、そのアドレス発のデータフレームおよびこのアドレス宛のデータフレームを廃棄することができます。また、物理アドレスに対してプロトコル条件を付加してフィルタリングすることも可能です。

### VLAN機能

本製品はさまざまなバーチャルLAN ( VLAN ) 機能を搭載しています。VLANではスイッチの物理的な構成に依存せず、自由なネットワークセグメントの設計ができます。

本製品のVLANはパケットフィルタ方式により実現しています。タグ付与等のデータフレームの変換をしていませんので、従来のネットワーク機器との共存・相互運用ができます。

定義できるVLANには次の4つがあります。

#### 「ポートベースVLAN」

最も基本的なVLANの定義です。本製品の全12ポート ( CentreCOM 8301を併用するときは最大16ポート ) を前もって定義したVLANに分割して所属させるものです。

#### 「プロトコル&ポートベースVLAN」

ポートベースVLANに、プロトコル指定を付加して運用するものです。IP/IPXで異なるポートグルーピングをし、また一方ではSNAはポートのグルーピングをしないといった動作ができます。

#### 「レイヤ3ネットワークベースVLAN」

プロトコルベースVLANの拡張機能です。各種通信プロトコルのうち、IP/IPX/AppleTalkプロトコルについて、レイヤ3ネットワーク情報によりVLANを構築することができます。一つのEthernetポートの配下に存在する端末を、そのネットワーク情報別に異なったVLANに所属させることができます。レイヤ3ネットワークベースVLANを設定するときは、VLANとそれに対応するネットワーク情報を設定する必要があります。

#### 「物理アドレスベースVLAN」

前もって登録した物理アドレスだけが所属できるVLANを定義します。この機能を利用すれば、強力なセキュリティを持ったVLANを構成できます。

#### 「VLAN優先制御機能」

またVLANの定義ではオプション機能として、High Priority VLANが定義できます。

High Priority VLANに設定されたVLAN内のトラフィックは、Ethernetポート送信時に優先的に送信されます。高負荷時に、重要な通信を確保したい場合に使用すると有効です。

### スパニングツリー機能

本製品は、IEEE802.1d準拠のスパニングツリー機能を搭載しています。これは、2つのスイッチの間に2つ以上の伝送経路がある場合、データフレームの無限周回を防ぐために1つの経路のみを実際に使用し、もう一方の経路は障害発生時のバックアップ経路として中継を停止するものです。

本製品は1つのEthernetポートを複数のVLANに割り当てることができます。したがってVLAN単位にスパニングツリーを動作させる ( マルチレイヤスパニングツリー ) のではなく、VLANの構成とは無関係に装置単位でスパニングツリーを動作させる「シングルレイヤスパニングツリー」を標準で採用しています。また本製品はVLAN単位でスパニングツリーを動作させるマルチレイヤスパニングツリーも実装しています。他社の機器 ( マルチレイヤスパニングツリーのみをサポートする装置 ) と混在する場合、ポートベースVLANでの運用に限りマルチレイヤスパニングツリーを作動させることができます。

### IP/IPXルータスイッチ機能

IP/IPXルータスイッチ機能は、1度ソフトウェアでルーティングしたIP/IPXデータフレームをキャッシュフロー情報としてハードウェアに登録し、その後同じIP/IPXデータフレームを受信したときはハードウェアで高速に中継するものです。

本製品は標準構成で10,240件のIPキャッシュフロー、2,048件のIPXキャッシュフローを持っています。オプションとしてCentreCOM 8312-3Mを増設することで、最大53,248件のIPキャッシュフローもしくは11,264件のIPXキャッシュフローを持つことができます。



IPXルータスイッチが適用できるフレームタイプはEthernet 802.2と802.3のみです。EthernetとEthernetSNAPに対してはソフトウェアルータが中継を行いません。

### IPフィルタ機能

本製品は、IPデータフレームを受信するたびにフィルタすることができます。

IPフィルタ機能を使用すると中継するIPデータフレームを決定し、不正アクセスを防止します。

フィルタの設定は、以下の項目について最大255件登録できます。

- (1)受信したパケットフレームの所属VLAN
- (2)送信元IPアドレスまたはサブネット
- (3)宛先IPアドレスまたはサブネット
- (4)上位プロトコル(UDP/TCP/ICMP等)
- (5)送信元ポート番号
- (6)宛先ポート番号
- (7)TCPパケットのSYNビットの有無

### IPルーティングプロトコル機能

本製品はTCP/IPルータスイッチの経路制御プロトコルとして、RIP version1、version2およびOSPF version2をサポートしています。

### IPXルーティングプロトコル機能

IPXのRIP情報またはSAP情報の広告をおこなうかどうかをVLAN単位で決定できます。また、指定の情報のみを広告メッセージから削除・追加できます。

### AppleTalkルーティング機能

Apple社の製品などで使用されているAppleTalkのルーティングをおこなうことができます。AppleTalkのphase2をサポートしており、ネットワーク構成に応じてパラメータを設定するだけで使用できます。

AppleTalkルーティング機能は、ソフトウェアルーティングとして動作します。

### Telnet/シリアルによるコンソール機能

RS-232C接続やTelnetで接続しているコンソールから各種の構成管理や保守コマンドを利用して、さまざまな設定や監視が簡単にできます。

### SNMPエージェント機能

本製品はSNMPエージェント機能を搭載しています。SNMPマネージャからネットワークの状態を監視できます。

### セットアップパラメータ保存機能

コンソール操作等で設定したセットアップパラメータは内蔵フラッシュメモリに保存できます。このため電源OFFによるパラメータ消失の恐れがありません。

また本製品はTelnetを通じてFTPクライアントを動作させ、セットアップパラメータをテキストファイルとして転送できます。

FTPクライアント機能により、設定パラメータのバックアップやバックアップパラメータのインストール、ソフトウェアのバージョンアップ、ログ情報の監視・参照・収集など、さまざまな保守管理機能を利用できます。

### RMON機能

SNMPエージェントの拡張機能として、統計情報の参照元となるRMON MIBをサポートします。通信の統計をとるために有効利用できます。

RMON MIBを利用するときは、Expansion Memory32が必要となります。

### ポートミラーリング機能

本製品のどれか1ポートをミラーリングポートとして指定できます。ミラーリングポートでは、コンソールコマンドで指定した特定のポートが送受信したデータフレームをそのまま中継します。ミラーリングポートにLANアナライザを設置することで、障害発生時の通信状態の監視が簡単にできます。

### システムログ保存機能

本製品で発生したイベントまたはトレース情報はシステムログとして内部メモリに保存されています。万一異常が発生したときには、コンソールからシステムログの内容を参照したり、FTPクライアント機能によるログのバックアップができます。

### CentreCOM Web機能

標準で実装されているCentreCOM Web for 8312とWWWブラウザを使用して、各種パラメータを簡単にセッティングすることができます。パラメータのセッティングにはセットアップウィザードとエキスパートメニューが用意されており、基本的なパラメータの設定にはセットアップウィザードが効果的です。詳しくは別添の「オペレーションマニュアル Web編」をお読みください。

## 2-2 拡張機能

### Expansion Module (拡張モジュール) の仕様

CentreCOM 8312には各種オプションが用意されています。  
各種モジュール(増設メモリ、拡張モジュール)を追加することにより、ユーザのシステム条件に合わせた独自のシステムを構築することができます。

CentreCOM 8312の基本部

品名	概要
CentreCOM 8312	本体(ソフトウェアは内蔵フラッシュメモリにプレインストール済み)。

CentreCOM 8312のオプション

品名	概要
CentreCOM 8312-3M	物理アドレステーブルおよびIP、IPXのキャッシュフローメモリの増設用。 1MBの高速SRAM3個。
CentreCOM 8312-32M	プログラムメモリ増設用。16MBのDRAM 2個。

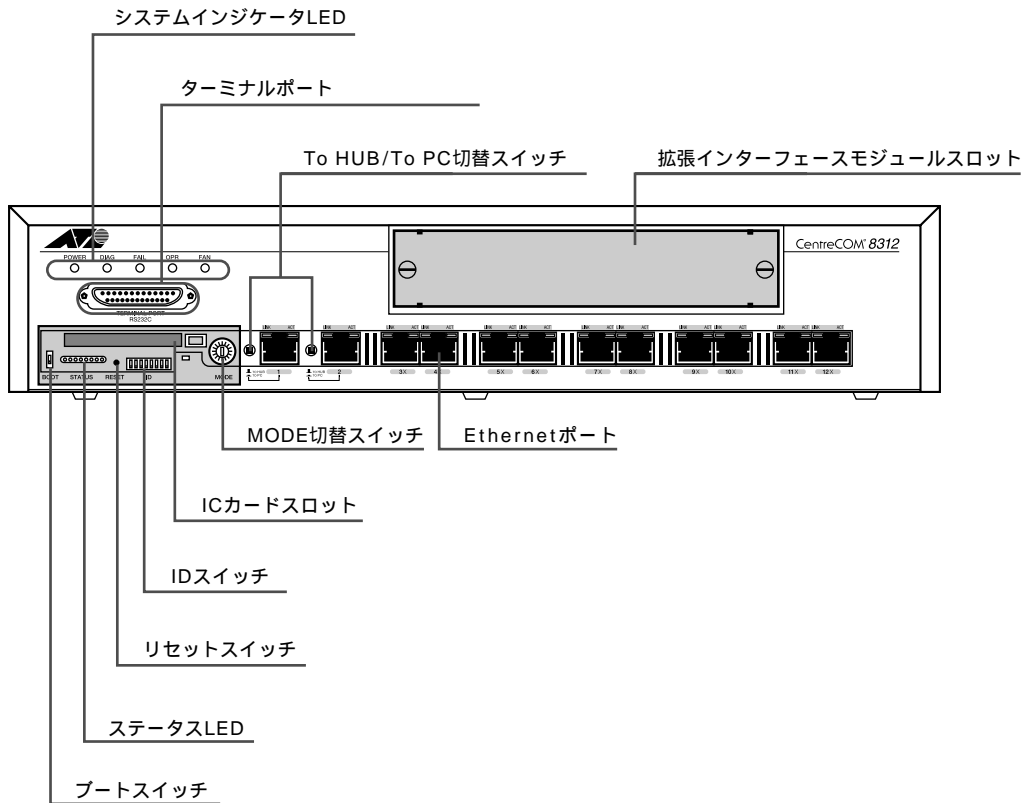
インタフェース モジュール	伝送速度	ポート 数	仕様	コネクタ 形状	伝送媒体
CentreCOM 8301	10/100Mbps	4	100Base-TX/10Base-T	RJ-45	UTPカテゴリ5(注1)
CentreCOM 8302F	100Mbps	2	100Base-FX	SC2芯	マルチモードファイバ

注1：10Base-Tの場合はUTPカテゴリ3以上でも可。

## 2-3 各部の名称と機能

CentreCOM 8312の各部の名称と機能は次の通りです。

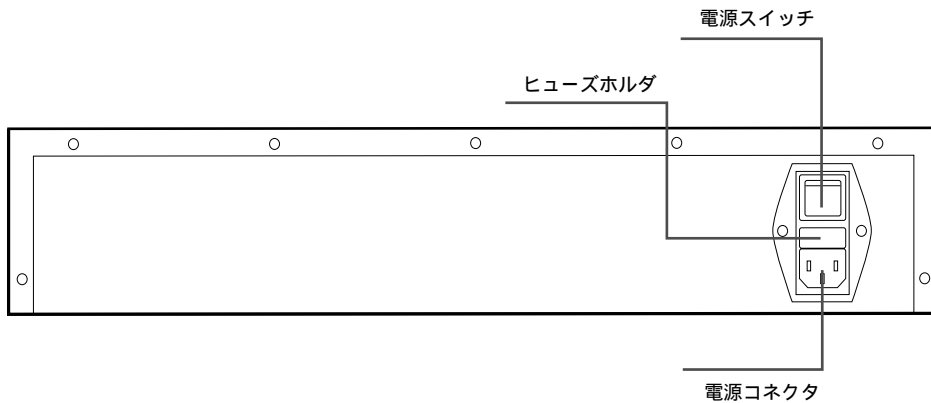
### 正面部



## 各部の説明

番号	名称	役割
1	システムインジケータLED	電源や運用の状態、および異常の発生をLEDで知らせます。( 15ページ)
2	ターミナルポート	コンソール接続用のD-Sub25ピンコネクタです。コンソール側( パソコン )のRS-232Cコネクタと接続し、各種パラメータの設定や保守作業をおこないます。RS-232Cクロスケーブルで接続します。( 33ページ)
3	ブートスイッチ	ICカード( 内蔵ソフトウェア )によってシステムソフトウェアの修復・アップグレードをするために使用します。
4	ステータスLED	本製品の動作状態を詳細に表示します。( 16ページ)
5	リセットスイッチ	異常発生時、内部保存ログ情報を残したままで内蔵ソフトウェアを再起動するときに利用します。
6	IDスイッチ	CentreCOM 8312のID番号を設定するためのディップスイッチです。通常運用時は( すべてのスイッチを下に倒す )に設定してください。( 17ページ)
7	ICカードスロット	ICカード用のスロットです。本スロットは、常時カードカバーを付けた状態で使用してください。
8	MODE切替スイッチ	MODE切替スイッチを使って、CentreCOM 8312の動作モードを設定します。通常は「 A 」で運用してください。それ以外のモードでの運用はしないでください。( 17ページ)
9	To HUB/To PC切替スイッチ	UTPポート( TXコネクタ )のピンアサインを「 To HUB( MDI )」、または「 To PC( MDI-X )」に切り替えます。( 17ページ)
10	UTPポート( ポート1からポート12 )	TXコネクタ( RJ-45 )です。10Base-Tではカテゴリ3以上のUTPケーブル、または100Base-TXではカテゴリ5以上のUTPケーブルを使用して、UTPポート搭載の機器と接続します。( 34ページ)
11	拡張インタフェースモジュールスロット	オプションの拡張インタフェースモジュールを格納するスロットです。各インタフェースモジュールについての詳細は、「5-4 拡張インタフェースモジュール」をお読みください。( 41ページ)

## 背面部



番号	名称	役割
1	電源スイッチ	CentreCOM 8312本体の電源を投入/切断するスイッチです。「   」側に押すとONに、「 」側に押すとOFFとなります。
2	電源コネクタ	電源コネクタに付属の電源ケーブルを接続することにより、ACコンセントから電源を供給できます。
3	ヒューズホルダ	ヒューズホルダには250V/4Aのヒューズを装着します。

### ⚠ 注意

CentreCOM 8312は精密機器です。電源スイッチのON/OFF操作は電源部に負担がかかりますので、電源スイッチを1回OFFにした後、再びONにするときは、約30秒お待ちください。

## ヒューズの交換方法

- 1 CentreCOM 8312背面パネルのヒューズホルダの下部に、先の細いマイナスドライバ等を差し込み、ヒューズホルダを引き出します。
- 2 ヒューズホルダの内部からヒューズを取出し、付属のヒューズと取り替えます。
- 3 ヒューズホルダを元通りに取り付けます。



## 警告

ヒューズを交換する場合は、感電する恐れがあるため、電源ケーブルを必ずコンセントから引き抜いてください。

## インジケータランプ

## システムインジケータLED

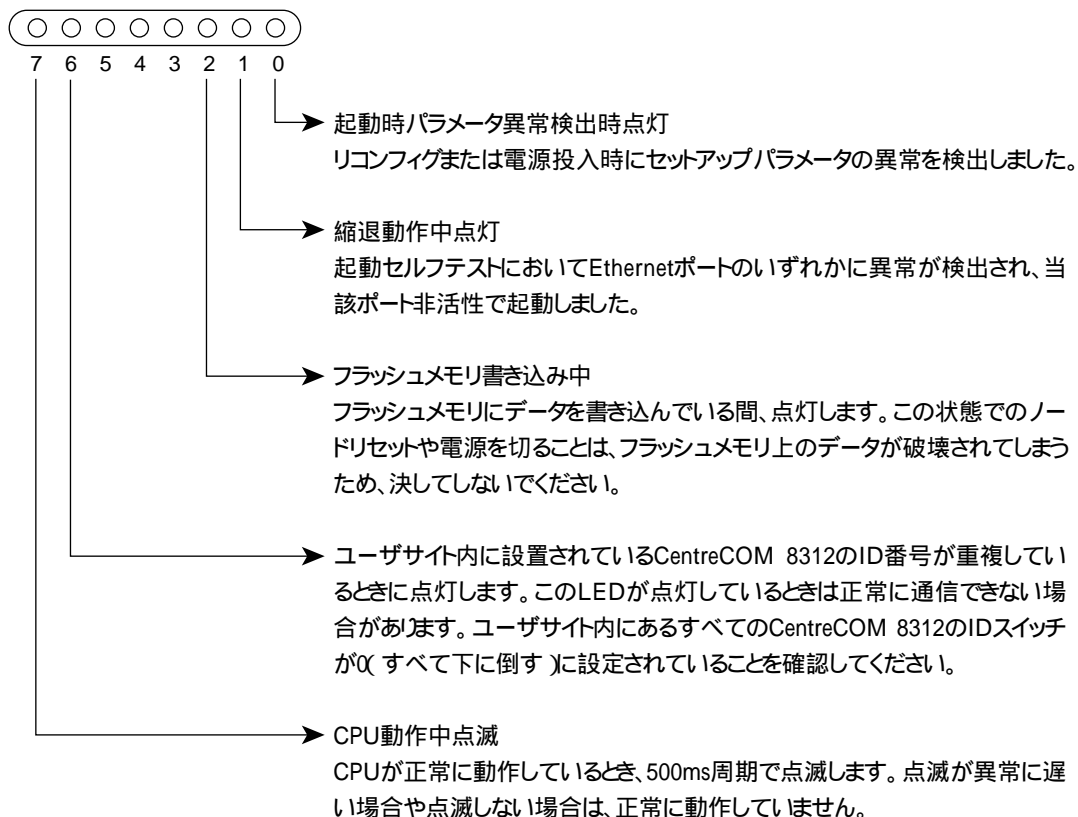
電源や運用の状態、および異常の発生をランプで知らせます。システムインジケータLEDの表示と内容を示します。通常運用時には、POWER LEDとOPR LEDが点灯しており、DIAG LEDやFAIL LEDおよびFAN LEDは消灯しています。付録のトラブルシューティングもあわせてお読みください。

	色	内容	点灯・消灯の意味
POWER	緑	電源の供給状態を表します。	点灯:電源ONです。 消灯:電源OFFです。
OPR	緑	Operationalの略。 正常運用中であることを表します。	点灯:システム運用できます。 消灯:電源OFF・リセット発生・システムに致命的なエラーが発生して通常動作ができません。
DIAG	赤	Diagnosticの略。 セルフテスト状態を表します。	点滅:セルフテスト実行中です。 点灯:セルフテストで致命的なエラーが発生しました。 消灯:電源OFF・リセット時及び正常運用中です。
FAIL	赤	Failureの略。 異常のためシステム運用に支障をきたすことを表します。	点灯:電源ON時(一瞬)・CPU異常・フラッシュメモリ異常・セルフテスト失敗です。 消灯:異常なしです。
FAN	赤	ファンの状態を表します。	点灯:ファンが回転停止しています。 消灯:ファンが正常回転中です。



## ステータスLED

通常運用時におけるステータスLEDの表示と内容を示します。ステータスLEDは通常カバーで覆われた状態になっています。異常が起きたときにカバーを取り外し、LEDの状態を確認するようにしてください。



## EthernetポートLED

EthernetポートLEDの表示と内容を示します。

	色	点 灯	消 灯
LINK	緑	正常にリンクしています。	リンクしていません。
ACT	緑	パケットを送受信しています。	パケットを送受信していません。

## MODE切替スイッチ

MODE切替スイッチはロータリ型のスイッチで、下表のように設定によってソフトウェアの動作が異なります。

番号	内容
A	通常運用モードです。
C	パラメータをすべて消去し、工場出荷時の設定に戻したいときやコンソールでのユーザ名・パスワードを忘れてしまったときに利用します。電源を投入して、ステータスLED0~7のすべてが点灯したら電源を切断します。 注意 ユーザ名・パスワードのみを消去するモードはありません。これらを忘れてしまったときはセットアップパラメータを改めて入力し直す必要があります。
その他	その他のスイッチ番号は保守員用です。使用しないでください。

## IDスイッチ

IDスイッチを使用して、ユーザサイト内のCentreCOM 8312の識別ID番号を設定します。通常運用時は0値（すべて下方向に倒す）で運用してください。



全て0値（下方向に倒す）に設定する必要があります。それ以外にすると、通信に支障の恐れがあります。

## To HUB/To PC切替スイッチ

Ethernetポート（TXコネクタ）のピンアサインを「To HUB（MDI）」、または「To PC（MDI-X）」に切り替えます。カスケード接続する場合は、「To HUB（MDI）」に設定してください。



CentreCOM 8312におけるポート1、2、またはCentreCOM 8301のすべてのポートは、UTPコネクタの極性（MDI/MDI-X）を切り替えることができます。通常は内部クロス（MDI-X）結線となっていますが、この切替スイッチを内部ストレート（MDI）結線にすると、ハブとの接続にストレートケーブルが使用できます。



ボタンが押されていない状態では、ピンアサインは「To HUB（MDI）」になります。




ボタンが押されている状態では、ピンアサインは「To PC（MDI-X）」になります。

# 3 使用上の注意

CentreCOM 8312を安全にお使いいただくために、ご使用になる前に、この「使用上の注意」をよくお読みいただき、十分に理解した上で作業をおこなってください。

警告事項、注意事項は、どれも安全に関する重要な内容です。怠りますと、人身上の傷害や機器の破損を引き起こす恐れがあります。

---


 **警告** 異常音、異臭、異常な熱・煙がある場合は、すぐに使用を中止し、電源コードを抜いてください。

もしCentreCOM 8312を使用中にこのような異常が生じた場合は、すぐに使用を中止して電源コードを抜いてください。

そのまま使用すると、感電や発火の原因になります。

---

---


 **警告** 分解、修理、改造は絶対にしないでください。

修理技術者以外の方は、絶対に、オプションモジュール以外のCentreCOM 8312の分解、修理、改造をおこなわないでください。

感電、発火の原因になります。

---

---


 **警告** 落下などの衝撃を与えないでください。

CentreCOM 8312を落下させたり、ぶつけるなどの衝撃を与えないでください。

そのまま使用すると、感電や発火の原因になります。

---

---


 **警告** 使用する電圧を間違えないでください。

定められた電源電圧以外では使用しないでください。

感電や発火の原因となります。

---

---


 **警告** 異物を混入させないでください。

開口部や隙間から、内部に液体をこぼしたり、異物を入れないでください。

ショートや発火の原因となります。

---

---

 **警告** 水洗いをしないでください。

水洗いは絶対しないでください。

感電する場合があります。

---



**注意** 温度差の大きい場所へ移動したら、すぐには使用しないでください。

温度差のある場所へ移動した場合、表面や内部に結露することがあります。このようなときには、数時間放置してからご使用ください。

---



**注意** 火気に近付けないでください。

ストーブなどの火気に近付けないでください。

装置の変形によるショート、発火や装置温度の上昇による装置破壊の原因となります。

---



**注意** 長時間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

長時間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

絶縁劣化による感電や漏電火災の原因となります。

---

# 4 設置と接続

## 4-1 設置するときの注意

CentreCOM 8312は精密機器ですので、CentreCOM 8312を設置する場所については、以下の点にご注意ください。

**⚠ 注意** 多湿および直射日光を避けてください。

本体内部に水滴ができたり、表面が変形することがあります。

動作温度 0 ~ 40 °C、動作湿度 30 ~ 90 % の範囲で使用してください。

**⚠ 注意** ほこりの多い場所は避けてください。

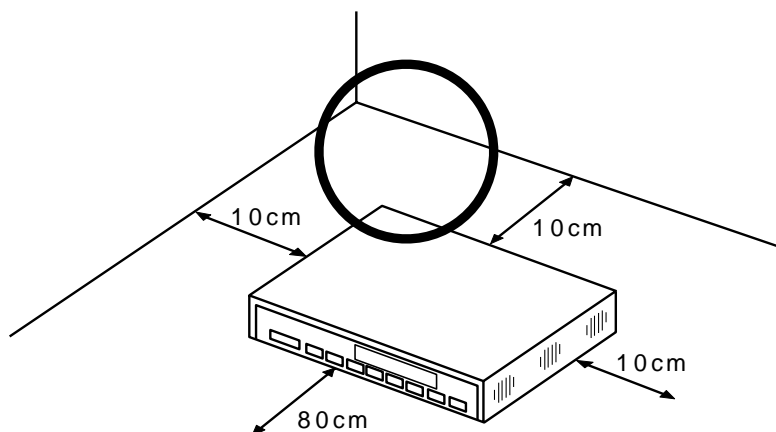
鉄粉などの導電性のほこりには特にご注意ください。

**⚠ 注意** 振動の多い場所は避けてください。


振動の多い場所への設置は接触不良など、誤動作の原因になります。水平で安定した場所に設置してください。

**⚠ 注意** 通風に配慮してください。

CentreCOM 8312の本体側面(右側)には冷却ファンの通風孔があります。十分な換気ができるように、CentreCOM 8312側面に障害物は置かないでください。また保守時には、保守ができるような空間を前面/背面に確保してください。




---

 **注意** ケーブル類の敷設に配慮してください。

100Base-FXの光ケーブルに無理な張力をかけないようにしてください。光ケーブルを巻いたり曲げたりするときは、曲半径を30mm以下にしないようにしてください。

---


---

 **注意** 水や油などの液体や湯気のかかる場所には設置しないでください。

故障の原因になります。

---

---

 **注意** テレビ・ラジオ・コードレス電話機などのそばに設置しないでください。

テレビ・ラジオ・コードレス電話機にノイズが入ることがあります。

---


---

 **注意** アースのとれる場所に設置し、必ずアース線を接続してください。

アース線を接続されずに、万一漏電した場合は感電することがあります。  
また静電気で故障することがあります。

---


---

 **警告** 不安定な場所には配置しないでください。

傾いた場所や狭い場所等には置かないでください。  
落ちたり倒れたりして、けがをする恐れがあります。

---

---

 **警告** 電源コードやケーブルをねじったり、踏みつけたりしないように配置してください。

電源コードや接続ケーブルを傷つける、破損する、加工する、無理に曲げる、引っ張る、ねじる、束ねる等、無理な力が加わるような配置はしないでください。また、重いものを載せる、踏みつける、挟みこむ等も同様です。

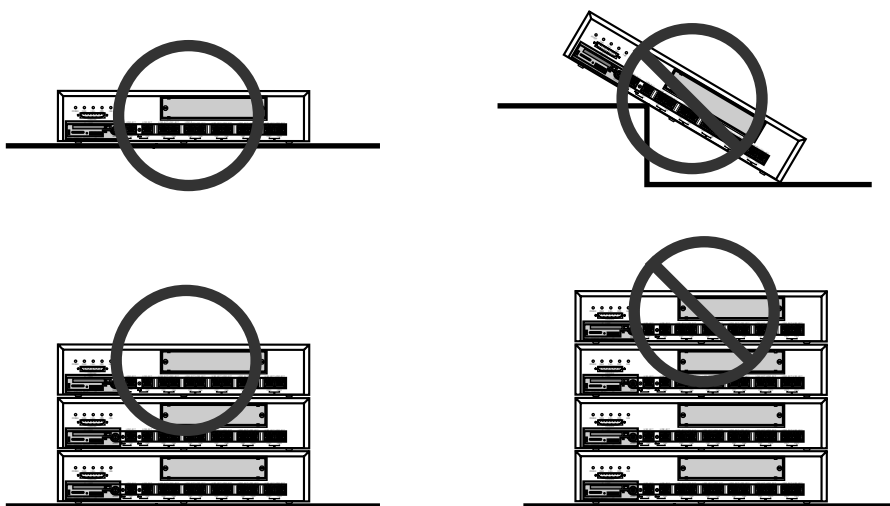
コードやケーブルが破損し、火災や感電の原因となります。

---

## 4-2 設置方法

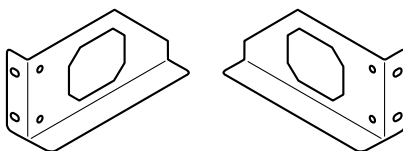
### デスクの上などに設置する場合

CentreCOM 8312を設置するときは、水平になるように置いてください。また設置する場所については、「4-1 設置するときの注意」( 20ページ)にしたがってください。積み上げて置くときは3段までにしてください。



### 19 インチラックに設置する場合

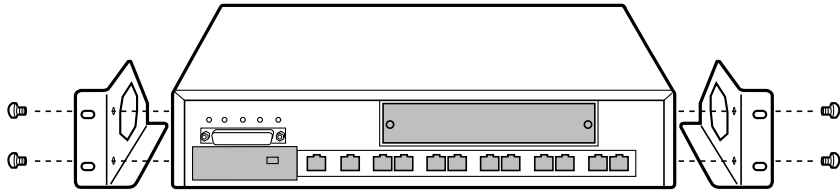
EIA規格の19インチラックにCentreCOM 8312を設置する場合は、付属のラック取り付け用金具を使用します。



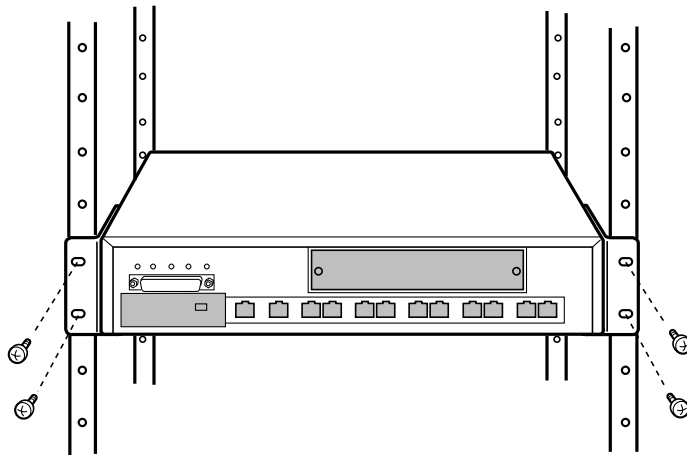
ラック取り付け金具の外観図

CentreCOM 8312を19インチラックに着脱する手順を説明します。

- 1 ドライバを使って、ラックマウント取り付け用金具左右とCentreCOM 8312をネジ（小・金具用）で締めて固定します。



- 2 ドライバを使って、フランジ左右と収納ラックをネジ（大・ラック用）で締めて固定します。



収納ラックからCentreCOM 8312を取り外す場合は、逆にフランジ左右のネジを緩めてCentreCOM 8312を収納ラックから取り外します。

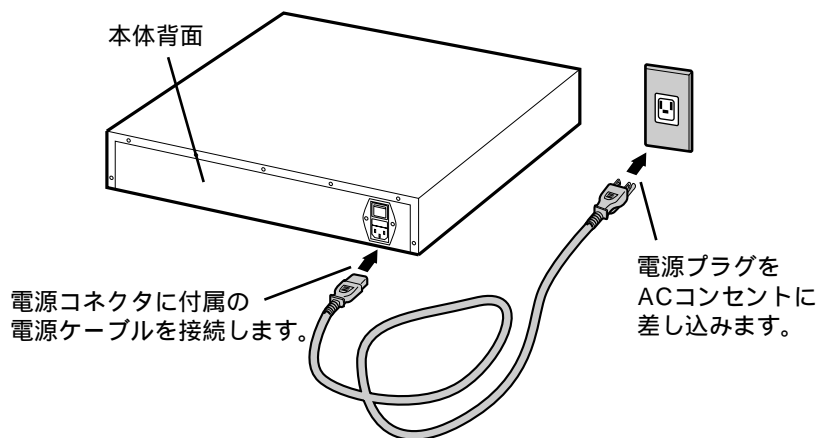


## 4-3 機器の接続

## 電源ケーブルを接続する

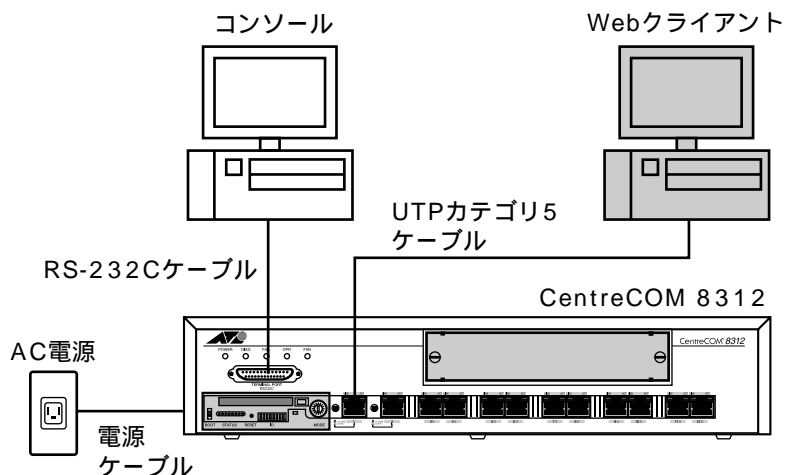
電源ケーブルを接続し、本体に電源を供給します。

電源が入ると前面のシステムインジケータLEDのPOWERが点灯します。この時側面のファンが回転していることを確認してください。



## ネットワーク機器やコンソールを接続する

各端末やサーバ、他のネットワーク機器を接続します。ここでは、CentreCOM 8312を使った代表的なネットワーク構成を例に説明します。この例を参考に各機器を接続し、運用する環境に合わせて「To HUB/To PC切替スイッチ」と、コンソールからオートネゴシエーションを設定してください。



「2本製品の概要」の「To HUB/To PC切替スイッチ」( 17ページ)をあわせて参照してください。

## 4-4 起動と終了

### 起動

CentreCOM 8312 を起動します。

- 1 CentreCOM 8312 に電源ケーブルやその他のケーブルが接続されていることを確認してください。
- 2 電源を入れる前に、次のスイッチ設定を確認してください。

スイッチ	設定
ブートスイッチ	下方向に倒す
MODE切替スイッチ	A
IDスイッチ	すべて下方向に倒す

- 3 電源を入れてから、次のLED内容を確認してください。

LED	状態
POWER LED	点灯
OPR LED	点灯
FAIL LED	消灯
DIAG LED	消灯
ステータスLED	LED 7(左から1番目)点滅

(その他のLEDについては当初起動時は関係ありません)

- 4 本体の「DIAG LED」が消灯し、コンソールにログインプロンプトが表示されるのを待ちます。



本製品をはじめて起動したときは、コンソールにはユーザ名「ATI」、パスワード「C8312」、IPアドレス「192.168.254.254」、ネットマスク「255.255.255.0」の設定がされています。また、WWWサーバ、Telnetサーバも同時に起動します。

### 終了

終了時は電源スイッチの「 」側を押してください。

# 5 付録

## 5-1 トラブルシューティング

CentreCOM 8312に異常が生じた場合の処置方法について示します。

### 異常検出機能について

本製品には、次の異常検出機能が搭載されており、運用中に万一異常が発生したときにはシステムインジケータランプで知らせるとともに、異常の内容に応じて動作を制御します。

LED表示の意味と異常の内容は、「こんなときは」を参照してください。

運用中の異常検出以外に、電源投入時とリセット時の異常検出機能としてブートROMテスト、セルフテストをおこなっています。

- |           |                          |
|-----------|--------------------------|
| ブートROMテスト | : 起動時にハードウェアの異常を検出します。   |
| 起動時セルフテスト | : 起動時にパラメータ読み込み異常を検出します。 |
| 運用中の障害検出  | : 冷却ファンの停止や電圧異常を検出します。   |

### こんなときは

#### 停電した時

停電復旧時（通電時）に自動的に起動します。

#### 電源スイッチをONにしても、POWER LEDが点灯しない

原因	処置
電源ケーブルが正しく接続されていません。	電源ケーブルを正しく接続してください。
電源ケーブルが断線しています。	電源ケーブルを他の電気製品でチェックしてください。 断線している場合は、お買い求めの販売代理店までご連絡ください。
ヒューズが切れています。	付属のヒューズと交換してください ヒューズの交換方法については、「ヒューズの交換方法（15ページ）」を参照してください。
POWER LED（電源表示）が切れています。	アライドテレシス サポートセンターまでご連絡ください。

## 正常にEthernetポートと他の機器が接続できない

本製品のEthernetポートに他の機器を接続して、実際に端末からpingコマンドなどで通信できない場合、下表に従って対処してください。

動作状態	対処方法
LINK LEDが点灯せず、接続できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接続先の機器と正しく接続されているかどうか確認してください。</li> <li>・接続先の機器の電源が入っているかどうか確認してください。</li> <li>・ポートに接続されているケーブルのタイプが正しいかどうか確認してください。また、使用しているケーブルが不良でないかを確認してください。</li> <li>・To HUB/To PC切替スイッチの設定が正しいかどうか確認してください。</li> <li>・オートネゴシエーション設定をおこなっている場合、固定の設定に変更してください。</li> <li>・Ethernetインターフェースの故障かどうか確認してください。CentreCOM 8312のEthernetポート同士をケーブルで接続してみて、LINK LEDが点灯すれば正常です。</li> </ul>
全二重モードで接続できない	接続先の機器が全二重モードに対応していないと、全二重モードでは接続できません。全二重モードに対応しているか確認してください。
リセットを繰り返す	本体に故障が発生しています。弊社サポートセンターにご連絡ください。

## システムインジケータLEDのDIAG、FAIL、FANが点灯する

DIAG	FAIL	OPR	FAN	内容および対処方法
点灯	消灯	消灯	-	セルフテスト実行中です。約30秒お待ちください。
点灯	点灯	消灯	-	起動テストで障害が発生しました。致命的障害発生時のステータスLED表示を参照してください。
点灯	消灯	点灯	-	セルフテストで縮退運転不可能なエラーが発生しました。使用不可能なEthernetポートがあります。使用不可能になったポート以外は正常に運用できます。コンソールコマンド「showlog」でsystemlogの内容を参照して、弊社サポートセンターまでご連絡ください。
-	消灯	点灯	点灯	ファンが停止しています。側面のファンを確認して、異物やゴミが詰まってファンが停止している場合は電源を切った後で異物、ゴミなどを取り除いてください。そうでないときはファンの交換が必要です。弊社サポートセンターまでご連絡ください。



セルフテスト時に、Ethernetポートの1ポートのみがダウンしている場合、セルフテストエラーとして正常に起動しないのではなく、ダウンしたポートを非活性として起動することを「縮退動作」といいます。「縮退動作不可能なエラー」とは、ポートを一部非活性にしても起動できない状態を引き起こしたエラーということになります。

## セルフテスト時のステータスLED表示

CentreCOM 8312は電源投入時とリセット時にブートROMテスト、システム展開、セルフテストを実行します。以下にその時のLEDの表示と内容を記述します。セルフテストを実行しているときは、テスト番号のLEDが点灯します。

ブートROMテストとセルフテスト時エラーのステータスLEDの表示と内容

Code	内 容	DIAG FAIL OPR	ステータスLED							
			7	6	5	4	3	2	1	0
0x01	DRAMデータエラー発生	×	×	×	×	×	×	×	×	
0x02	DRAMアドレスエラー発生	×	×	×	×	×	×	×		×
0x03	DRAMバーストアクセスエラー発生	×	×	×	×	×	×			
0x04	CPU 1次キャッシュエラー発生	×	×	×	×	×			×	×
0x05	タイマ割り込みエラー発生	×	×	×	×	×			×	
0x06	RS232C 通信エラー発生	×	×	×	×	×				×
0x10	Ether 内部ループバックエラー発生	×	×	×		×	×	×	×	×
0x11	FMU LSI アクセスエラー発生	×	×	×		×	×	×		
0x12	FMU SRAM データエラー発生	×	×	×		×	×			×
0x13	PSP LSI アクセスエラー発生	×	×	×		×	×			
0x14	PSP SRAM アクセスエラー発生	×	×	×		×		×	×	×
0x15	CentreCOM8312全ポートエラー発生	×	×	×		×			×	
0x16	拡張インタフェースモジュール全ポートエラー発生	×	×	×		×				×
0x19	L3 CPUキュー連続送信エラー発生	×	×	×				×	×	

:点灯    :点滅    ×:消灯



シリアルポートと端末をストレートケーブルで接続していた場合、Code 0x06が点灯することがあります。

## 致命的障害発生時のステータスLED表示とその内容

Code	内容	DIAG	FAIL	OPR	ステータスLED							原因と対処		
					7	6	5	4	3	2	1		0	
0x00	CPU動作不能	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	BootスイッチがON(上方向に倒す)になっていないか確認してください。もしBootスイッチがONになっていれば、OFF(下方向に倒す)にし、一度電源を切った後再度電源を入れてください。
0x82	MODE切替スイッチエラー発生			×	×	×	×	×	×	×	×	×	MODE切替スイッチの設定が異常です。設定をAIにして、一度電源を切った後再度電源を入れてください。	
0x85	システムローディングエラー発生			×	×	×	×	×	×	×	×	×	内蔵フラッシュメモリが壊れているか、Basic System Softwareが壊れています。弊社サポートセンターまでご連絡ください。	
0x91	フラッシュメモリフォーマットエラー発生			×	×	×	×	×	×	×	×	×		
0x94	フラッシュメモリROMチェックサムエラー発生			×	×	×	×	×	×	×	×	×		
0x95	フラッシュメモリLOMチェックサムエラー発生			×	×	×	×	×	×	×	×	×		
0x9B	フラッシュメモリLOM展開エラー発生			×	×	×	×	×	×	×	×	×		
0x89	デフォルトパラメータでの起動異常			×	×	×	×	×	×	×	×	×		
0x8A	メモリ領域取得エラー			×	×	×	×	×	×	×	×	×		
0xC0	DOSファイルシステム生成エラー			×	×	×	×	×	×	×	×	×		
0x88	システムドライバエラー発生			×	×	×	×	×	×	×	×	×		本体のハードウェア障害です。弊社サポートセンターまでご連絡ください。
0xB0	不正割り込み(Cache Error)			×	×	×	×	×	×	×	×	×		
0xB1	不正割り込み(EEV=1, IV=0)			×	×	×	×	×	×	×	×	×		
0xB2	不正割り込み(EEV=1, IV=1)			×	×	×	×	×	×	×	×	×		

:点灯    :点滅    ×:消灯

**注意** ▶ 上記以外の障害についてはアライドテレシス サポートセンターまでご連絡ください。

## 5-2 製品仕様

### 電源・環境・外観等の仕様

項目	仕様
機器寸法	430mm(W)×85mm(H)×410mm(D)
重量	7kg以下
電源電圧 消費電力	電源電圧:AC100V(50/60Hz) 消費電力:300VA以下
動作温湿度	温度:0~+40 湿度:30~90%(結露なきこと)
保存温湿度	温度:-20~+70 湿度:30~90%(結露なきこと)

## サポートするプロトコル及びサービス

### サポートするプロトコルと対応する規格

プロトコル及びサービス	対応する規格
Bridging ・ Spanning Tree ・ Packet Filter	IEEE802.1d 独自 送信元または宛先MACアドレスによるフィルタ VLAN構成によるプロトコルフィルタ
IP Routing ・ IP  ・ ARP ・ ICMP  ・ SNMP  ・ RIP & OSPFv2  ・ FTP Client ・ Telnet Server ・ DHCP & Bootp relay  ・ Httpd ・ Packet Filter	RFC791 Internet Protocol. RFC1812 Requirements for IP Version 4 Routers. RFC950 Internet Standard Subnetting Procedure. RFC922 Broadcasting Internet datagrams in the presence of subnets. RFC1191 Path MTU Discovery. RFC826 Ethernet Address Resolution Protocol. RFC792 Internet Control Message Protocol. RFC1256 ICMP Router Discovery Messages. RFC1155 Structure and identification of management information for TCP/IP-based internets. RFC1156 Management Information Base for network management of TCP/IP-based internets. RFC1157 Simple Network Management Protocol (SNMP). RFC1212 Concise MIB definitions. Gated Ver3.6 Based RFC1058 Routing Information Protocol RFC1583 OSPF Version 2 RFC1723 RIP Version 2 Carrying Additional Information. RFC385 Comments on the File Transfer Protocol. RFC854 Telnet Protocol specification. RFC1534 Interoperation Between DHCP and BOOTP. RFC1542 Clarification and Extensions for Bootstrap Protocol. RFC2131 Dynamic Host Configuration Protocol. RFC2132 DHCP Options and BOOTP Vendor Extensions. HttpD Apache V1.1.3 独自 送信元IPアドレス(サブネット) 宛先IPアドレス(サブネット) 上位プロトコル( ICMP/TCP/UDP ) 送信元ポート番号 宛先ポート番号 TCP SYNビットの有無 受信VLAN
IPX Routing	Novell社 IPX Specification Version1.30 Part-Number 107-000029-001 Novell社 Netware Link Services Protocol Specification Revision 1.0 Part_Number 100-001708-0023
AppleTalk Router	Apple Computer社 Inside AppleTalk Second Edition準拠



## サポートするMIB及び対応するRFC

サポートするMIBと対応する規格

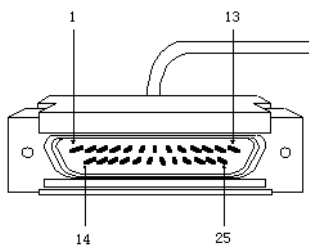
RFC準拠のSNMP/SNMP関連MIB	対応する規格
MIB-	RFC1213
TRAP MIB	RFC1215
Enterprise-specific MIB	RFC1493&弊社独自
Interface Group MIB	RFC1573
Etherlike MIB	RFC1643
Bridge MIB	RFC1493
IPX Router MIB	Novell社独自
AppleTalk MIB	RFC1742
RMON MIB Group 1,2,3,9 (オプション)	RFC1757
Private MIB for Physical View	弊社独自
Private MIB for Extended RMON (オプション)	弊社独自

## インタフェース仕様

### シリアルインタフェース

外部インタフェースとしてシリアルインタフェースがあります。管理用コンソールとの接続に使用します。

項目	仕様
規格	EIA RS-232C
同期方式	非同期無手順
データ伝送速度	9600bps
コネクタ	D-Sub 25ピン(メス型)
ワードセレクト	データ長 : 8ビット      パリティビット : なし ストップビット : 1ビット      使用コード : JIS 8
フロー制御	X-ON/OFFフロー制御を必須



ピンの位置(ケーブル側コネクタ)

CentreCOM 8312 (DB25オス)		接続	コンソール (DB25)	
ピン番号	信号名		信号名	ピン番号
2	TXD	X	TXD	2
3	RXD		RXD	3
7	GND		GND	7

コンソールとの接続

CentreCOM 8312 (DB25オス)		接続	コンソール (DB9メス)	
ピン番号	信号名		信号名	ピン番号
2	TXD	X	TXD	3
3	RXD		RXD	2
7	GND		GND	5

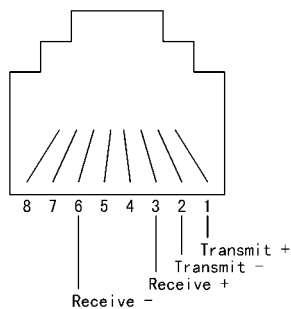
PC/AT互換機をコンソールにしたときの接続



CentreCOM 8312のピン番号4(RTS)、20(DTR)は常時ONです。また他の信号の接続はコンソールに依存します。

## Ethernetポートインタフェース

項目	仕様
通信方式	IEEE 802.3 IEEE 802.3u( CSMA/CD )
データ伝送速度	100Mbps( IEEE 802.3u ) 10Mbps( IEEE 802.3 )
符号化方式	マンチェスタ符号( 10Mbps ) 4B5B + MLT - 3( 100Mbps )
適合ケーブル	UTPカテゴリ5( 10Base-Tの場合はUTPカテゴリ3以上でも可 )
コネクタ	RJ-45コネクタ
最長通信距離	100m

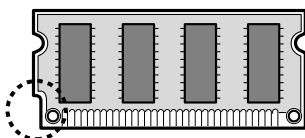


Ethernetポートピンアサイン

## 5-3 メモリの増設

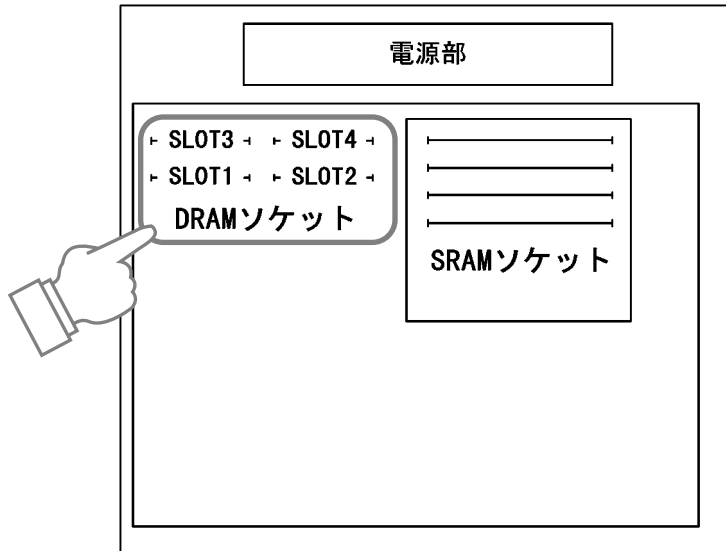
### CentreCOM 8312-32Mの増設

CentreCOM 8312-32M（2枚1組）の増設をおこなうことで、VLAN数、IPルーティングテーブル、IPXルーティングテーブルおよびIPXサーバテーブルのサイズを拡張することができます。またRMON等のオプション機能を利用する場合には増設メモリが必要です。詳しくは各オプションソフトウェアの項に記述しています。CentreCOM 8312は、標準で32MBのDRAMを実装しています。オプションとして32MBのDRAMを追加実装することで、64MBまで拡張できます。



CentreCOM 8312-32M

メモリを増設するときのCentreCOM 8312-32Mの取り付け位置は、図を参照してください。



CentreCOM 8312-32Mの組み合わせは、下表に従ってください。それ以外の組み合わせによるCentreCOM 8312-32Mの実装はできません。

CentreCOM 8312-32Mの組み合わせと装着ソケット位置

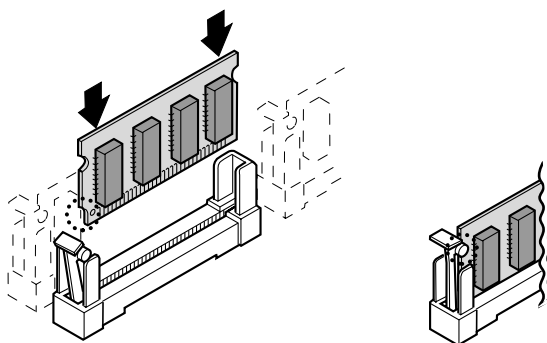
DRAMの容量	SLOT1	SLOT2	SLOT3	SLOT4
32MB(標準)	16MB	16MB	空き	空き
64MB(増設)	16MB	16MB	16MB(*)	16MB(*)

CentreCOM 8312-32M増設時には(\*)で示すソケット位置に、該当容量のCentreCOM 8312-32Mをそれぞれ装着してください。

64MBまで増設する場合は、DRAMソケット(SLOT3、SLOT4)にCentreCOM 8312-32M(16MBのDRAM×2個)を1組(2個)装着します。

## CentreCOM 8312-32Mの装着手順

- 1 CentreCOM 8312本体の、上面、側面と背面にあるネジを外し、上カバーを上方向にスライドして取り外します。
- 2 CentreCOM 8312-32Mを、溝に合わせて、DRAMソケットの底に軽く当たるまで差し込みます。
- 3 CentreCOM 8312-32Mの上部左右がカチッと止まる位置まで押し下げます。  
CentreCOM 8312-32Mを押し下げる力は、電気製品のスイッチを入れる程度です。それ以上の力で押す必要がある場合は、CentreCOM 8312-32Mの挿入の向きと深さなどを確認し、押し込み直してください。



- 4 CentreCOM 8312本体の上カバーを取り外しとは逆の手順で取り付けて、ネジを締めます。
- 5 コンソール機能を利用して、ログインします。そのときに出力するメッセージを確認し、メモリ容量が増設されていることを確認してください。

### ⚠ 警告

感電の危険がありますので、作業は電源ケーブルをコンセントから抜いた状態でおこなってください。

### ⚠ 注意

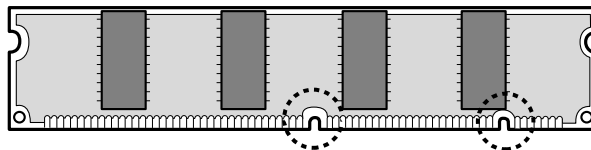
各モジュールは物理的な性質により、静電気には非常に弱くできております。モジュールを抜き差しする際には、端子などの金属部分に手で触れないように注意してください。またCentreCOM 8312-32Mの保管には静電気のある場所を避けてください。

### ⚠ 注意

各メモリモジュールの装着作業時には、必ず本体の電源を切った状態でおこなってください。

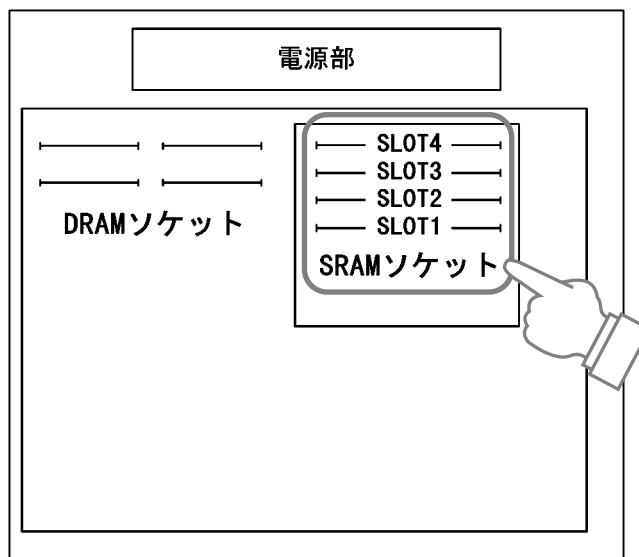
## CentreCOM 8312-3Mの増設

CentreCOM 8312-3M（3枚1組）の増設をおこなうことで、2層スイッチングにおけるMACアドレス学習テーブル、およびルータスイッチングにおけるIP/IPXのハードウェア中継フローキャッシュのサイズを拡張することができます。CentreCOM 8312は、標準で1MBのSRAMを実装しています。オプションとして3MBのSRAMを追加実装することで、4MBまで拡張できます。



CentreCOM 8312-3M

メモリを増設するときのCentreCOM 8312-3Mの取り付け位置は、図を参照してください。



CentreCOM 8312-3Mの組み合わせは、下表に従ってください。それ以外の組み合わせによるCentreCOM 8312-3Mの実装はできません。

CentreCOM 8312-3Mの組み合わせと装着ソケット位置

SRAMの容量	SLOT1	SLOT2	SLOT3	SLOT4
1MB(標準)	1MB	空き	空き	空き
4MB(増設)	1MB	1MB(*)	1MB(*)	1MB(*)

CentreCOM 8312-3M増設時には(\*)で示すソケット位置に、該当容量のCentreCOM 8312-3Mをそれぞれ装着してください。

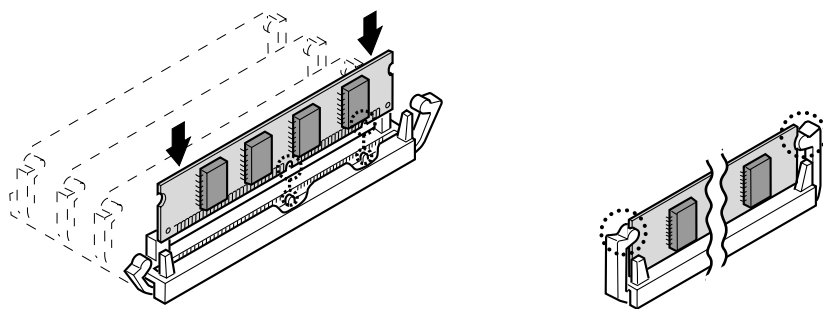
4MBまで増設する場合は、SRAMソケット(SLOT2、SLOT3、SLOT4)にCentreCOM 8312-3Mを3個(1MBのSRAM×3個)装着します。

**注意**▶ 本CentreCOM 8312-3M増設時には、CentreCOM 8312-32Mもあわせて増設する必要があります。



## CentreCOM 8312-3Mの装着手順

- 1 CentreCOM 8312本体の上面、側面と背面にあるネジを外し、上カバーを上方向にスライドして取り外します。
- 2 CentreCOM 8312-3Mを、溝に合わせてSRAMソケットに挿入します。
- 3 CentreCOM 8312-3Mの上部左右を左右の爪がCentreCOM 8312-3Mを固定する位置まで押し下げます。  
CentreCOM 8312-3Mを押し下げる力は、電気製品のスイッチを入れる程度です。それ以上の力で押す必要がある場合は、CentreCOM 8312-3Mの挿入の向きと深さなどを確認し、押し込み直してください。



- 4 CentreCOM 8312本体の上カバーを、取り外しとは逆の手順で取り付けて、ネジを締めます。
- 5 コンソール機能を利用して、ログインします。そのときに出力するメッセージを確認し、メモリ容量が増設されていることを確認してください。

---

**⚠ 警告**

感電の危険がありますので、作業は電源ケーブルをコンセントから抜いた状態でおこなってください。

---

**⚠ 注意**

各モジュールは物理的な性質により、静電気には非常に弱くできております。モジュールを抜き差しする際には、端子などの金属部分に手で触れないように注意してください。またCentreCOM 8312-3Mの保管には静電気のある場所を避けてください。

---

**⚠ 注意**

各メモリモジュールの装着作業時には、必ず本体の電源を切った状態でおこなってください。

---

## 5-4 拡張インタフェースモジュール

### CentreCOM 8301

CentreCOM 8301は、CentreCOM 8312と同様の10/100Base-TのEthernetポートを4ポート持つ増設用拡張インタフェースモジュールです。全てのポートにTo HUB/To PC切替スイッチが付いています。CentreCOM 8312への取り付けについては、「拡張インタフェースモジュールの実装方法（43ページ）」を参照してください。

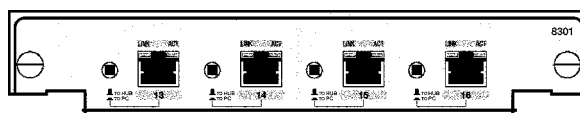
項目	仕様
外形寸法	160mm(W)×30mm(H)×169mm(D)
重量	350g以下

各EthernetポートのLEDの表示と内容

	色	点灯	消灯
LINK	緑	正常にリンクしています。	リンクしていません。
ACT	緑	パケットを送受信しています。	パケットを送受信していません。

Ethernet ( TX ) ポートの仕様

項目	仕様
通信方式	IEEE 802.3 IEEE 802.3u( CSMA/CD )
データ伝送速度	100Mbps( IEEE 802.3u )10Mbps( IEEE 802.3 )
符号化方式	マンチェスタ符号( 10Mbps ) 4B5B+MLT - 3( 100Mbps )
適合ケーブル	UTPカテゴリ5( 10Base-Tの場合はUTPカテゴリ3以上でも可 )
コネクタ	RJ-45コネクタ
最長通信距離	100m



CentreCOM 8301

## CentreCOM 8302F

CentreCOM 8302Fは、100Base-FXのFXポートを2ポート持つ増設用拡張インタフェースモジュールです。CentreCOM 8312への取り付けについては、「拡張インタフェースモジュールの実装方法（43ページ）」を参照してください

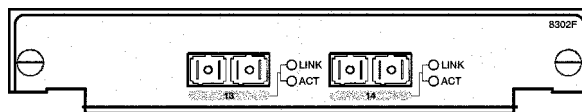
項目	仕様
外形寸法	160mm(W)×30mm(H)×169mm(D)
重量	350g以下

各FXポートのLEDの表示と内容

	色	点灯	消灯
LINK	緑	正常にリンクしています。	リンクしていません。
ACT	緑	パケットを送受信しています。	パケットを送受信していません。

FXポートの仕様

項目	仕様
通信方式	IEEE802.3u( CSMA/CD )
データ伝送速度	100Mbps
符号化方式	NRZ + MLT-3( 100Mbps )
適合光ファイバ	AGF GI 50/125 $\mu$ m、62.5/125 $\mu$ m
光コネクタ	SC2芯コネクタ
最長通信距離	400m( 半2重モードの場合 ) 2000m( 全2重モードの場合 )
光送信器ファイバ結合レベル	-14 ~ -23dBm (平均値:50 $\mu$ mファイバの場合)
光受信器検出レベル	-14 ~ -30dBm (平均値)



CentreCOM 8302F

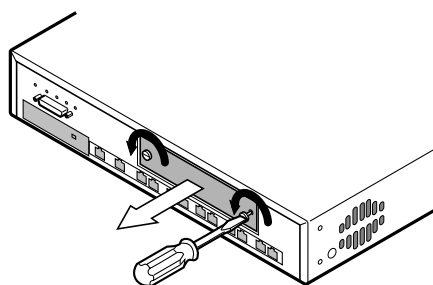
## 拡張インタフェースモジュールの実装方法

### ⚠ 注意

各インタフェースモジュールの装着 / 取り外し作業時には、必ず本体の電源を切った状態で行なってください。

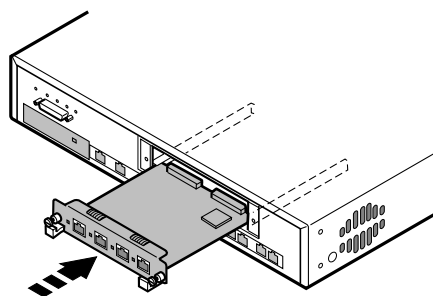
### 拡張インタフェースモジュールの装着手順

- 1 本体正面にある拡張スロットのカバーのネジをドライバーではずし、拡張スロットカバーを取り外します。

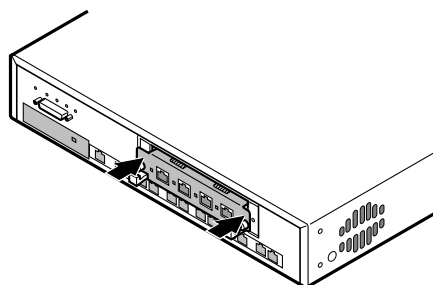


⚠ 注意 ▶ 拡張スロットカバーをなくさないようにしてください。

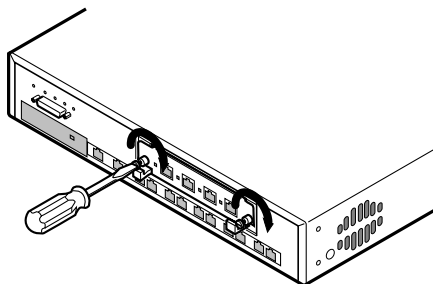
- 2 拡張インタフェースモジュールを、拡張スロットの溝に合わせ、奥に当たるまで軽く差し込みます。



- 3 拡張インタフェースモジュールを左右から押し込みます。

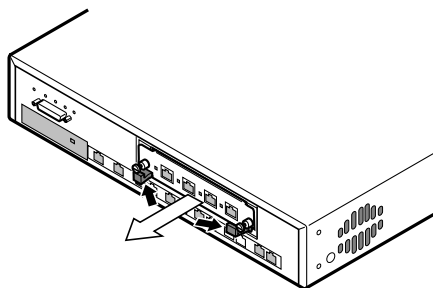


- 4 ドライバを使って両端にあるネジを締め、拡張インタフェースモジュールを固定します。



### 拡張インタフェースモジュールの取り外し手順

- 1 ドライバを使って両端にあるネジを外します。
- 2 拡張インタフェースモジュールの両端にあるハンドルを左右に押し広げます。  
てこの原理で、インタフェースモジュールが手前に出てきます。
- 3 拡張インタフェースモジュールの両端を持って、拡張スロットから引き抜きます。



## 5-5 保証とユーザサポート

### 保証

製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」をお読みになり、「お客さまインフォメーション登録カード」に必要事項を記入して、弊社「お客さまインフォメーション登録係」までご返送ください。

「お客さまインフォメーション登録カード」が返送されていない場合、保証期間内の無償での修理や、障害発生時のユーザサポートが受けられません。

### ユーザサポート

障害回避などのユーザサポートは、本書の調査依頼書を（拡大）コピーしたものに必要事項を記入し、下記のサポート先へFAXしてください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

TEL : ☎ 0120-860-772 月曜～金曜日まで（祝・祭日を除く）  
10:00～12:00 13:00～17:00

FAX : ☎ 0120-860-662 年中無休 24時間受付

## 調査依頼書のご記入にあたって

調査依頼書は、お客様の環境で発生したさまざまな障害の原因をつきとめるためにご記入いただくものです。

ご提供いただく情報が不十分な場合には、障害の原因をつきとめることに時間がかかり、障害を解消できない場合もあります。

迅速に障害の解消を行うためにも、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点にそってご記入ください。

記入用紙に書ききれない場合は、プリントアウトなどを別途添付してください。

なお、都合によりご連絡の遅れる場合もありますので、あらかじめご了承ください。

## 使用しているハードウェア、ソフトウェアについて

製品名、製品のシリアル番号（S/N）、製品リビジョンコード（Rev）を調査依頼書に記入してください。製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品に添付されているバーコードシールに記入されています。

（例）



ソフトウェアのバージョンを記入してください。

バージョンを確認する場合は、CentreCOM Web for 8312メイン画面（コンソールの場合は、ログイン後の表示）の「LFSW」を参照してください。例えば、LFSW300の場合は、バージョン3.00となります。

## お問い合わせ内容について

どのような症状が発生するのか、またそれはどのような状況で発生するのかを出来るかぎり具体的に（再現できるように）記入してください。

エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージやコードを明記してください。

## ネットワーク構成について

ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。

他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

## 調査依頼書 ( CentreCOM 8312 )

### 一般事項

1. 会社名 :

部署名 :

お名前 :

ご連絡先住所 : 〒

TEL : ( )

FAX : ( )

2. 購入先 :

購入先担当者 :

連絡先 ( TEL ) : ( )

### ハードウェアとソフトウェア

製品名 : CentreCOM 8312 シリアル番号・リビジョン :  
ソフトウェアバージョン :

  
S/N \_\_\_\_\_ Rev \_\_\_\_\_

### お問い合わせ内容

別紙あり      別紙なし

設置中に起こっている障害

設置後、運用中に起こっている障害

### ネットワーク構成図





アライドテレシス株式会社

PN J613-M0392-00 Rev.B 981030